

次世代プログラム運営会議 研究者・研究課題審査(第5回)

- 日時 : 平成 23 年 2 月 3 日 (木) 11:05~11:34
- 場所 : 中央合同庁舎第 4 号館 12 階 1214 会議室
- 出席者 : 平野副大臣、阿久津政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、青木議員、今榮議員、中鉢議員、金澤議員

- 議事要旨 :

(相澤議員)

次世代プログラム運営会議を開催する。

今回は、最終決定を急ぐということで研究者・研究課題選定の具体的な方針を検討いただいた。本日はまず、研究者・研究課題の総件数を決める必要があり、以前から検討を進めてきたとおり、総採択件数としては 330 件とすることを結論づけたい。その根拠としては、第 1 に、日本学術振興会から推薦のあったグリーン・イノベーション●件、ライフ・イノベーション●件については、この順位に従って採択するということである。第 2 に、公募時に各都道府県から少なくとも 1 件は採択するというのを明記しているが、ここまでの合計●件に含まれていない県が●あるため、これらの県からの提案を●件加える。第 3 に、これらに加えて若手の女性研究者からの提案を一定数確保する。女性研究者の割合は 30% を目標とするということが公募要領に記載されているが、申請内容から判断すれば、グリーン・イノベーション●件、そしてライフ・イノベーション●件加えることが適切と考えられる。これにより、女性研究者の割合は 25% となる。これらの条件に基づき、総件数は 330 件が適切と考えられる。

前回ご議論いただいた、応募者からの追加資料をお手元に配布している。これについては既に有識者議員に送付されているが、私と本庶議員でそれぞれ目的とした内容になっていることを確認している。

以上を踏まえ、総件数を 330 件とすることについてお諮りしたい。

(意見無し)

次の議題は、各研究者・研究課題に対する配分額である。この検討を進めるにあたり、資料プー 2-1 を用意した。基金としての研究費の総額は 500 億であるが、研究者に直接配分する研究費の他に、今まで行われた審査、あるいは、今後のシンポジウムの開催等、様々なことをプログラム全体として進めていかなければいけない。このような経費を見込み、研究者に配分可能な総額がどの程度になるか記している。この内容を事務局から説明願いたい。

(竹田参事官)

資料プー 2-1 に基づき、基金の内訳について説明させていただく。次世代プログラムのために確保している基金は総額 500 億円であり、うち研究費と研究費以外の経費に分かれる。まず、各研究者・研究課題に配分する研究費をどのような方針で査定したかということを一～七まで記載している。

第 1 に、平成 22 年度は、実質的に研究期間が短いことから、試薬、実験用動物の購入

費や人件費等を減額させていただくということ。第2に、非常に高額な研究機器、大量の消耗品の購入、機器の複数購入については、研究者に効率的な研究の実施を求める、物品費を減額させていただく。第3に、研究支援者、研究補助者の人数が研究規模に対して多い場合には人件費を減額する。第4に、平成25年度は研究の最終年度に当たるため、23年度、24年度と比較して研究費は減少するということを想定して減額としている。第5に、旅費や会議費等、過度に積算されているものについても減額した。第6に、アフーマティブアクションとして研究者・研究課題決定案に選定した課題については、他のものに比べて厳しく査定させていただく。第7に、日本学術振興会における査定を参考にしながら、上記1から6を考慮して経費を精査したということである。

その結果が資料プー2-2、及びプー2-3である。プー2-2がグリーン・イノベーション、プー2-3がライフ・イノベーションである。ここに記載している直接経費、間接経費、総額という部分がこの運営会議で査定したものである。また、11月に再度研究者の方に提出いただいた研究経費の総額及び当初の申請額に対する査定額の比率を示している。

続いて資料プー2-1の裏をご覧ください。研究費以外の経費を示している。第1に、研究開発の進捗状況を今後行う必要があるため、このための専門家の謝金、旅費、必要な会議費などを計上している。第2に、国民に対して研究内容を発信するためのシンポジウムの開催経費を見込んでいます。1と2については、今後、具体的にどのように進めるのか検討が必要である。第3に、日本学術振興会の公募・選定に実際にかかった経費である。書面、ヒアリング審査のための委員の謝金、旅費、審査の会場費等である。第4に、今後、JSPSでの基金の執行管理にかかる経費を計上している。トータルとしてこれらの経費が12億円程度、研究費として配分する額が488億円程度であり、合計約500億円となる。

資料プー2-4は、研究費の配分について整理したものである。488億円の内訳としてグリーンとライフで分けると、グリーンが207億円、ライフが281円億程度となる。併せて積算の再提出時の内訳を記載しているが、当初は総額約●億円であったため、約●割程度査定をしたということになる。

資料プー2-5は、昨年6月に決定いただいた『「国民との科学・技術対話」の推進について』である。年間の平均の配分額が3,000万円以上の研究者については、科学・技術対話に取り組んでいただくこととなっており、多くの研究者が該当するため、研究者への周知を図りたい。

(相澤議員)

平野副大臣が到着されたため、議事の途中であるが副大臣から一言ご挨拶いただく。

(平野副大臣)

議事の途中であるが、一言ご挨拶とお願いを申し上げたい。先般の内閣改造において科学・技術政策担当を拝命した。国家戦略も担当している。ご存知のとおり、新成長戦略においても科学・技術は重要な戦略分野に位置付けられており、科学・技術政策はこれからの国家戦略上重要なテーマである。来年度予算編成においては、大変厳しい財政状況の中、科学・技術予算はしっかり確保しなくてはならないということで、編成の最後の段階で菅総理が直接の指示を出されたことはご案内のとおりである。

今回の最先端・次世代研究開発支援プログラムは、菅総理が科学・技術政策の担当大臣であった時代に500億円を確保して立ち上げた野心的な事業である。今、日本は人口減少社会に直面しており、社会保障費の増加も著しい。また、各産業分野においても

新興国などからの追い上げが厳しくなっており、資源の無い我が国が成長するためには、人材の確保、そして、科学・技術による成果創出が重要である。本プログラムにおいては、若手・女性研究者が果敢に研究に挑戦し、科学・技術の成果を創出するとともに、これらの研究者が大きく育っていくことを期待している。

また、研究者への過剰な負担になってはいけませんが、今般、研究経費の積算等については追加的に資料を提出いただいた。財政状況が厳しい中、このような視点も今後重要になってくると考えている。いずれにせよ、研究者にしっかり結果を出していただくことが重要であり、有識者議員の皆様におかれては、引き続きご指導をお願い申し上げます。

(相澤議員)

本日は既にかなり議論が進んでいる。まず、総採択件数については330件という結論が得られたところである。少なくとも各都道府県から1件は採択するということ、女性研究者の割合は30%を目標とすることが決定されており、各都道府県から少なくとも1件は採択される内容となっている。また、女性研究者の割合は25%になった。

現在、基金をどのように配分するか議論しているところであり、資料プー2-1のとおり基金としては500億円確保されている。その中で、総額487億円を各研究者・研究課題に配分するというので、具体的な配分額を資料プー2-2及びプー2-3に記している。先ほど配分額の査定基準を説明し、このような形で運営会議として査定したというものである。それでは、資料プー2-2とプー2-3の内容をご了承いただきたい。

(意見無し)

(中鉢議員)

女性研究者の割合は30%が目標であるが、最終的に25%としたことについて十分に説明できるのか。アフーマティブアクションを行わない場合はどの程度の割合なのか。

(相澤議員)

●%と記憶している。

(中鉢議員)

●%を25%まで引き上げたというプロセスは我々の努力である。資料プー3では、このことが端折られて全件数に対する比率は25%と「なった」としている。これは「した」ではないのか。

(相澤議員)

25%にすることについては、十分にご議論いただいた上での結論であり、この点は表現を整えていただきたい。それでは、総件数と配分額についてご了解が得られたため、これを資料プー3のとおり最終案として総合科学技術会議に諮ることとしたい。

内容を申し上げれば、研究者・研究課題決定案としてグリーン・イノベーション141件、ライフ・イノベーション189件、合計330件を選定した。そして、女性研究者からの提案はグリーン・イノベーション31件、ライフ・イノベーション52件、合計83件を選定し、全件数に対する比率を25%とした。さらに、全ての都道府県からの提案が含まれるよう選定した。最後に、各研究者・研究課題は別紙のとおりとした、という形式でまとめている。これを運営会議の決定とすることについてご了解いただきたい。

(金澤議員)

研究課題への配分額が500億円ではないということを記載した方がいいのではないか。

(相澤議員)

その内容を記載することとする。

(中鉢議員)

先ほどの発言に関連するが、女性研究者の比率は30%を目指したが、結果として25%とした。メディア等からこの5%はどうしたのかと聞かれた場合に、どのようなポジションをとるのか。

(相澤議員)

外部への説明については、十分に検討させていただきたい。

(梶田審議官)

資料プー3、本会議決定用文書の(2)については、女性研究者からの提案の全件数に対する比率を25%に「した」という表現に修正させていただく。

(相澤議員)

それでは、金澤議員からのご指摘の点も修正した上で、総合科学技術会議本会議に諮ることとしたい。

(意見無し)

(本席議員)

附帯的な意見として述べたい。このプログラムの非常に重要な点は、若手研究者に研究費を配分して、独立して研究してもらおうという点である。今回、20代の方が何人かおり、画期的なことであるが、このような方が本当に独立して研究できる環境を各研究機関が担保しなければならない。このことに関しては、内閣府及びJSPSがサポートしていくことが重要であるため、その点をお願いしたい。

(相澤議員)

本席議員のご指摘も含め、このプログラムが目的どおり機能するよう今後引き続きご議論いただきたい。

それでは、運営会議を閉会するにあたり、副大臣から一言ご挨拶いただきたい。

(平野副大臣)

最先端・次世代研究開発支援プログラムの採択案をまとめていただき感謝申し上げます。我が国の次世代を担う研究者に、速やかに研究を開始していただくことが大切だと思っている。事務局は早急に大臣にお諮りした上で、総合科学技術会議本会議で正式決定できるよう手続を進めていただきたい。

(相澤議員)

副大臣からご発言いただいたように、一刻も早く決定し、実施することが重要である。本日、皆様のご協力を得ながら最終案をまとめることができたことに感謝を申し上げて、運営会議を終了させていただく。

以上